

211人の新たな門出を祝う

1月9日(日)、令和4年神戸町成人式が中央公民館で開催されました。平成13年4月2日から平成14年4月1日生まれの211名が対象となり、式には169名が出席。「恩師との記念撮影会」では小学校に埋めたタイムカプセルや、20歳の自分に向けた作文が配られるなど、思い出話に花を咲かせながら新たな門出を祝いました。

式では新成人を代表して高橋拓渡さんが二十歳の主張を述べました。

実行委員の紹介 (五十音順・敬称略)

伊藤 匠	傍島 悠月	高田泳渚夢
高殿 彩	高橋 拓渡	藤田進太郎
藤埴 竣	細野 妃杏	松永 玲奈
若山 莉也		

成年年齢引き下げ後の成人式事業の対象年齢について

民法改正に伴い、令和4年4月から成年年齢が20歳から18歳に引き下げられます。

現在、神戸町で行っている「成人式」は、令和4年度以降も「飛翔 二十歳を祝う会」として、これまでどおり20歳を対象に実施します。

問い合わせ：生涯学習課 ☎27-0182



二十歳の主張



新成人代表
高橋 拓渡さん

新成人を代表して、「新しい時代に取り残されない」ということを主張させていただきます。

私は先日、中学校で教育実習をさせていただきました。ご存知のとおり、現在の学校はコロナの影響による行事の中止や分散登校など、私たちの送った学校生活からは様変わりしています。しかし、そのこと以上に大きく変わったことがあります。

それは、教育現場における情報化です。生徒は配布されたタブレット端末で課題やアンケートの提出を行い、必要に応じて自宅でリモート授業を受け、オンラインでお楽しみ会や班長会を開いています。小学校では、児童がタブレットで資料を作成し、発表を行っていました。神戸中学校に電子黒板が導入されたのは私たちが3年生の時でしたが、あれから5年足らずで更に情報化が進んでいます。私はあらためて、「時代が変わった」ことを痛感したのです。

出席している皆さんは、就職し

族を持つといった、普通の人生を送る未来を思い描いているかもしれませんが、しかし、コロナによって大きく変貌を遂げた「超情報化グローバル社会」はそんなに甘くはないでしょう。中国ではGAF Aに匹敵する企業が現れ、世界の覇権を握ろうとしています。日本が「支援する側」であった東南アジア諸国も急速に発展しています。インターネットのような「時代を一瞬で変える」ものが現れば、世界における日本の立場が後退し、私たちが平和に生活できなくなる日が来るかもしれません。

しかしながら、私たちはそのような時代の到来を防ぐことができるはずで、手元にあるスマートフォンでは、政治や国際情勢からファッションまで、多様な情報に触れ、発信することが出来ます。私たちは最新の情報に触れ、知識教養の幅を広げること、これからの日本を支えていくことになるでしょう。私たちの平和で豊かな生活を守るべく、「新しい時代に取り残されない」人間を目指していきましょう。

最後に、近くで支えてくれる家族とともに励ましあいながら成長しあえる仲間、指導してくださった先生方、忙しい中協力していただいた実行委員の皆さん、このような状況下で式典にご尽力賜りました関係者の皆様にご感謝申し上げます。私の主張とさせていただきます。